

地域で取り組むアカミミガメ防除

西堀智子¹・松原隆之²・松原圭介²

¹ 和亀保護の会

² 兵庫県東播磨県民局地域振興室

Removal of Red-eared slider turtles carried out by the citizen.

By Tomoko NISHIBORI¹, Takayuki MATSUBARA² and Keisuke MATSUBARA²

¹Wagamehogonokai

²Higashiharima District Administration Office, Hyogo Prefecture

和亀保護の会の東播磨におけるアカミミガメ防除は2006年に遡る。はじめて寺田池(加古川市)でアカミミガメ問題に取り組んだ時から、県民局や土地改良事務所は積極的に和亀保護の会の声に耳を傾け、協力を惜しまなかった。また地域住民や学校も、時を経ずして活動を共にするようになった。これほどスムーズに防除活動がスタートしたのは、東播磨で「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」が展開されていたからである。

協議会の基礎組織である「ため池協議会」は行政、教育・研究機関、実践活動団体、地元メディアなどの支援を受けて、地域の水辺のために自主的な活動を行っていたが、それがアカミミガメ防除にも大きな力となったのである。東播磨は多数のため池を抱えており、アカミミガメが蔓延している場所も多い。その防除には、地域住民が主体となり、地域の問題と捉えて地道に長く取り組むことが最も重要である。今回の発表では「寺田池協議会」や「峠池を考える会」で行った防除の事例を報告しながら、地域で自立して行うことのできる防除のポイント①～④を示した。

- ① お金がかからないこと(予算は限られており、はじめだけであることが多い)。
- ② 辛いと感じる作業でないこと(肉体的・精神的にハードであれば長続きしない)。
- ③ 得になること(ご褒美があれば効果的である)。
- ④ 楽しいこと(マンネリ化を防ぎ、長続きさせるための工夫をする)。

例えば、捕獲作業をするたびにエサを必要とせず、見回りなどの手間も最小限となる日光浴罌を地域で作成する(①②)。地域で一つ冷凍庫を設置し、捕獲したアカミミガメを安楽と思われる方法で処分する(②)。死体はため池周辺の空き地などで堆肥化し、地域のために活用する(③)。地域の啓発イベントや池干しなどで、楽しみながら効率的に学習・捕獲作業を行う(④)。また時には慰霊祭を行い、駆除に伴う心の負担を軽減する(②)などである。このように防除が地域活動として根付き、良き水辺作りの一環として位置づけられるようになれば、成果も自ずと現れるのである。実際9年間防除を続けている寺田池では、アカミミガメはかなり低密度化し(図1)、スッポンが見られるようになった(図2)。また峠池でもアカミミガメが目立たなくなりつつあり、ハスの再生に期待が高まっている。

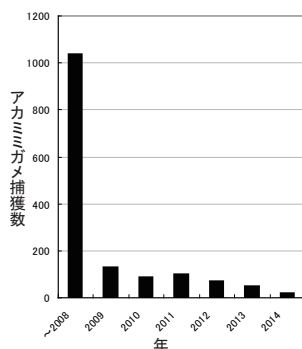


図 1. 寺田池の年毎のアカミミガメの捕獲数

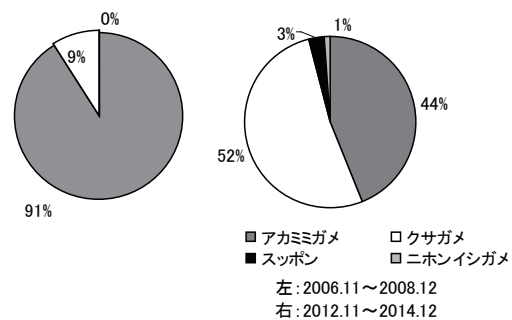


図 2. 寺田池に棲息するカメ類の種構成